

＜学校教育目標＞

校訓「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」の具現化をとおして、社会を生き抜く力を身につけた子どもを育成する。

【本校児童の重点課題】

学力調査の結果及び普段の授業の様子から、本校児童の重点課題は「書く力」であることが分かる。書く力の低下につながっている主な要因としては、以下の3つが考えられる。

① 文章の内容、問いの内容が理解できていない。

② 自分の考えを形成できていない。

③ 表現の仕方、漢字、言葉の意味が分からない。

そこで、本校では重点課題である「書く力」を含めた「思考力・表現力」の改善に向けた取組として、「外海スタンダード（思考力・表現力向上に向けた取組）」を設定し、学力の向上を図ることとする。

重点目標

- 基礎基本の確実な定着（漢字や言葉の習得、確実な計算力）・・取組の継続
 - 「生きて働く」知識・技能の育成
 - CRT 国語・・全国平均比 95～100 を目指す。
 - CRT 算数・・全国平均比 95～100 を目指す。
- 思考力・表現力につながる読解力の育成
 - CRT 国語・・全国平均比 90～95 を目指す。
 - CRT 算数・・全国平均比 90～95 を目指す。
- 家庭・地域との連携の強化
 - 「家庭学習の手引き」の活用
 - コミュニティ・スクールを生かした教育活動の推進

R7 年度学力調査【知識・技能】

-市学力国語・・市平均比 100～105 を目指す。

-市学力算数・・市平均比 100～105 を目指す。

-県学力国語・・県平均比 100～105 を目指す。

-県学力算数・・県平均比 95～100 を目指す。

-全国学力国語・・全国平均比 95～100 を目指す。

-全国学力算数・・全国平均比 85～90 を目指す。

R7 年度学力調査【思考・判断・表現】

-市学力国語・・市平均比 100～105 を目指す。

-市学力算数・・市平均比 90～95 を目指す。

-県学力国語・・県平均比 100～105 を目指す。

-県学力算数・・県平均比 80～85 を目指す。

-全国学力国語・・全国平均比 75～80 を目指す。

-全国学力算数・・全国平均比 75～80 を目指す。

外海教育スタンダード（思考力・表現力向上に向けた取組）

◆書く力の向上◆	◆読解力の向上◆	◆学習意欲の向上◆	◆家庭・地域との連携◆
○「1人1冊作文ノート」を活用した書く経験の積み重ね - 視写、日記、条件に合わせた短作文等 ○各教科での書く活動の設定 - 毎時間必ず問いやテーマに対する考えや思いを書く活動を設定 - 多様な言語活動の設定 ○モデル文の提示 - 文頭・文末表現（順序、理由、事例等） - 個に合わせたワークシートの活用（アウトラインのみ、キーワード提示、穴埋め形式等）	○読解力育成の視点を取り入れた授業 - 係り受け解析（主語と述語の関係を問う） - 照応解決（指示代名詞が示す言葉に線を引かせる） - イメージ同定（文章から読み取ったことを絵や図、表などを用いて整理させる） - 視覚的な情報整理（色分けサイドライン等） ○読解力の基礎としての語彙力、漢字力、構文力の育成 - 辞書、電子書籍の活用 - 目的意識をもった音読 - 具体的な表現を用いた説明 - 文と文の順序や接続を正しく使った説明	○学ぶ意欲が高まる魅力ある導入の工夫 - 前時の想起、見通しがもてる提示の工夫 - 身近な素材や生活の場面と結び付けた導入 - めあてにつなぐ導入 - 終末に「できた」「わかった」が自己評価できるめあての設定 ○「わかる・できる」ことの楽しさを実感できる授業 - 教材教具の工夫（資料室の活用） - ICT 機器の活用 - 小さな成功体験の積み重ね - 個に応じた目標の設定 - 本時の成果を書いて、整理・確認させる（児童自身で表す学習のまとめ、振り返りの設定） ○立ち止まって学び合える学校掲示の工夫 - 教室掲示・・学級目標をふまえた学びの成果の共有化 - 校内掲示・・学校目標をふまえた学びの成果の共有化	○家庭学習の習慣化、保護者・学童への周知 - 基本的な宿題形式の全校統一（漢字・計算・音読・作文）とレベルに合わせた課題設定 - キュビナの月間目標の設定 →国語・算数各200問をボーダーラインとして、各自目標を設定する。（10月強化月間…目標400問） 「家庭学習の手引き」の定着 →個の課題に合った「自学」の設定（テストファイルの活用、家庭学習チェックカード） - デジタル配信による全校・学校・個別に向けた連絡、啓発 ○コミュニティ・スクールを生かした教育活動の推進 - 自分の生き方について考える - 生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域人材の活用 →各教科との連携（言語活動） - 目的意識、相手意識を高めた活動や交流 - 図書ボランティア・学校サポーターとの連携、駐在の立哨による安全意識の向上、大学との連携による学習
○ 励みタイムの共通実践…身に付けた力を十分に発揮できる土台づくり			
- 読解にかかる時間の確保（年間計画の作成） - 視写、設問に対する答え方の指導、応用問題 - 多様な「問いと答え方」に慣れる（CRT アシストシートの活用） - 個人差に配慮した課題の設定			

●基礎基本の定着	●基本的生活習慣●	●特別支援教育●	●ICT機器活用●	●指導体制●	●読書活動●
○漢字の読み書きの練習、四則計算練習、公式の習得 ○書くスキルの育成 鉛筆の持ち方、姿勢、速記 ○学習規律の徹底	○「あ・は・は運動」の定着 ○用具等の準備と整理 ○「よいこのきまり」の定着 ○『そとめっ子』リズムカードの実施	○実態把握と指導の工夫 →・「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成 - 専門機関との連携、巡回相談の活用 - 保護者啓発	○ICT 機器の効果的な活用 （電子黒板、デジタル教科書） （クロームブック、電子書籍） ○校務のデジタル化 ○リモート学習の定着	○励みタイムの設定(週1回) ○パソコンタイムの設定(週1回) タイピングスキル、語彙力向上、パソコンスキルの向上	○読書タイム(週1回) ○読書の質の向上 ○学校図書館司書との連携 ○学習との連動(情報センターとしての図書室利活用)

■教師の指導力向上■

- 校内研修の充実（研究主題『ふるさと外海を語り、誇りにできる子どもの育成～生活科・総合的な学習の時間を柱として～』） - 子どもたちが安心できる落ち着いた学級経営 - 保護者との信頼感の構築
--